

がん研有明の会 会報

有明の風

第59号

2023年11月10日発行

河口湖大石公園とコキア



がん研がん化学療法センターの 歴史と抗がん剤開発

がん研究会 常務理事・研究本部長
野田 哲生

がん研の研究本部には、研究所に加えて、がん化学療法センター、がんプレジジョン医療研究センター、そしてNEXT-Ganken プログラムという、3つの部門がありますが、この中で研究所に次いで長い

歴史があるのが、がん化学療法センター（以下、化療センター）です。1973年に設立された化療センターは、今年をもって開設以来50年となり、今年、藤田直也所長の主催により、記念の会を開催したばかりです。そこで、今回は化療センターの歴史とがんのお薬の開発について、皆様にご説明させて頂きたいと思っております。

さて、がん治療における3大治療法、手術による外科治療、抗がん剤による薬物治療、そして放射線を用いる放射線治療の中で、最も新しい、すなわち歴史の短い治療法はどれだと思われますか？それは薬物療法です。実は、第2次世界大戦で、毒ガスに曝された将兵に急激な白血球数減少が見られたことをきっかけにして、マスタードガスから作られるナイトロジェンマスタードという化合物を用いて、リンパ腫の治療が試みられたのが、がんの薬物療法の最初であると言われています。

その後、日本でも、1954年には最初の日本発抗がん剤であるナイトロミンが開発されていますが、この開発で中心的な役割を果たしたのが、日本を代表するがん研究者である吉田富三先生です。その後、吉田先生は1963年に癌研所長に就任され、新たな抗がん剤候補を見つけるため、米国国立癌研究所（NCI）との共同事業として「抗がん剤スクリーニング事業」の立ち上げを進められます。そして、その日本側拠点として、笹川財団（現在の日本財団）を始め、民間による資金援助を得て、1973年に癌研究会癌化学療法センターの設立に漕ぎ着けます。

しかし、吉田先生は、4月28日に行われた開所式の前日に、その70歳の生涯を閉じられます。そして、今年で50年が経過したわけです。

新設された化療センターのメンバーは、吉田先生の遺志を継いで、「抗がん物質のスクリーニング」を大掛かりに展開しました。そして、国内外の製薬企業との緊密な連携の甲斐もあって、その後、化療センターからは、数多くの優れた抗がん剤が生み出され、国内のがん研究者や医師にがん研の存在を知らしめることに繋がりました。

ただし、この50年の間に、抗がん剤の開発手法は、大きく変革を遂げました。そのきっかけは、基礎研究の進展により、がんの分子機構の解析が大きく進み、その増殖に重要な役割を果たしている「がん遺伝子」の存在が明らかになったことです。そして、このがん遺伝子が作り出す分子を「標的」としたがん治療薬、いわゆる分子標的薬が開発されるようになりました。この分子標的薬は、一般的に、高い有効性を示すとともに、副作用もあまり酷くないのが特徴です。21世紀に入ってから、この「がんに対する分子標的薬」が次々と開発されていますが、化療センターでも、20世紀終盤から、この分子標的薬の開発に取り組んでおり、現在、いくつもの有望なお薬が治験の段階に入っています。

がんの分子標的薬の開発は、研究所をはじめとする研究部門で、ヒトがんの基礎的な解析を強力に推進しているがん研にとっても、大変に重要な分野であり、その研究の中で得られる「分子標的候補」に対する創薬は、今後も化療センターの中心的な事業となります。皆様には、がん研発のこうした「副作用が少なく、高い有効性を示す分子標的薬」の開発に、どうぞ期待をして頂ければと思います。

今後とも、がん研に対するご支援を宜しくお願いいたします。

がん研有明友の会 新型コロナウイルス感染症の対応と活動報告

令和元年（2019）12月初旬に感染者が報告され、今年12月で5年目を迎えます。新型コロナウイルス感染症の位置づけは「新型インフルエンザ等感染症2類相当」としていましたが、令和5年5月8日から「5類感染症」となり、法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから、個人の選択を尊重し、自主的な取り組みをベースとした対応に代わりました。有明病院敷地内では、今でも必ず常に不織布マスクの着用をお願いしておりますので、ご協力どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、本会の活動もこの影響を受けてましたが、会の目的である

- ① 情報の提供、検診費用の一部負担による会員の健康増進
- ② （公財）がん研究会事業のがん克服に向けた病院経営に必要な支援

以上の2点を考慮に入れて活動を行ってまいりました。

また、委員会活動では

*総務委員会：本会事業の運営全般に関する事項を取り扱う中で、予算・決算の適正管理

*企画渉外・広報委員会：会報誌の年4回の発行（45号～59号を発行）

*友の会会員相談：がん研究会・病院関係者であった本会理事を中心に各種相談に努めています。

*会員増強推進委員会：院内での対面広報活動ができないため、インフォメーションデスク活動を休止しています。

—— 今後の本会活動についてご意見などをお聞かせください！ ——

皆さまご承知のように、この約4年間で時代が大きく変化しました。ネット情報が瞬時に世界中を駆け巡り、戦争・紛争・犯罪等が頻発する今日、私たちの生活にも大きな変化が見られます。プライバシー保護の名のもとに人間関係が希薄となり、お世話活動もしにくい時代になっています。

せめて本会仲間同士情報を共有して、繋がりを深めたいと考えます。ご意見などをお寄せ下さい。

文責 事務局長 河野庄次郎



ボランティア支援室「ハロウィン飾り」

ボランティア支援室による季節の飾りつけ

病院1階ホスピタルストリートでは月替わりで季節に合った飾りつけをしています。

10月の「ハロウィン飾り」では、ハロウィンかにかちゃんとがん研職員が折り紙で手作りしたカラフルなかぼちゃんに、毛糸で編んだかぼちゃんたちが皆さまをお迎えしました。

11月の飾りつけもお楽しみくださいね！



癌研病院勤務から50年の区切りを終えて シリーズ ③

がん研有明病院 名誉院長 中川 健

● 経験した三つの災害の覚え書き

それから目の回るような半日が始まりました。幸運にもがん研有明病院を含め地域の電源は大丈夫でした。エレベーターは給食用のもの1台の不具合のみで済みました。その頃からNHKのテレビ放送が災害の詳細を始め、マグニチュード9.0の未曾有の大地震が三陸地方の沖合で発生したことが報じられ、地震の40分後位には見た事もない大津波が、大きな泥流となって海岸から内陸に向かって押し寄せてくる光景が映し出され、本当に大地震と大津波だと実感しました。



その時刻には手術室ではまだ7件の手術が進行中でした。未開始の比較的小規模な手術1件のみは延期としましたが、他の20件ほどは全て無事に完遂できました。

公的交通機関の停止により、職員は別として、外来患者とその付添いを中心に帰宅困難者が約600名いることが判明し、その方々の休息・臥床睡眠の為に、外来治療室は全て解放、2階外来の中待合の椅子(中の手摺を上げるとベッドになります)を廊下に搬出して休息の場としました。まもなくやってくる夕食の為に、当院の給食部門の炊飯装置の稼働増、1階ホスピタルストリートで営業の東京會館と4階職員食堂委託業者の応援を得て、計1,000食程の「おにぎり」が準備でき、各部門から職員の応援を得て帰宅困難の皆様へ配布しました。遅れて炊き上がって作った分のおにぎりを配布する時には、既に一度入手された方は御遠慮くださいと申し上げたのですが、皆様がしっかり守ってくださり、おにぎりに余剰が発生しました。「ひとの難儀は我が難儀」と理解されている方ばかりなのに驚きました。

またこの混乱の中、以下の2点を強調した病院長からの院内放送をしました。その内容は、1) この建物は免震建築なので地震には強くて安全です。現状で被害はほぼありません。2) 患者さんの明日以降の治療に支障はありません。治療が継続できないのではとの心配は全くありませんのでどうかご安心ください。という2点です。この放送は、2名の職員が防災対策本部に来て、帰宅困難者や患者さんの不安を



おにぎり配布

払拭する病院長のメッセージを院内放送して欲しいと進言してくれました。早速15分ほど文案を考えて院内放送しましたが、この院内放送は大地震後の不安な気持ちを力づけてくれたと好評でした。その後の地震発生を前提とした防災訓練には、必ず放送で話すように定着しています。次号(60号)に続く

「がん患者の持つ力を見だし支援する看護」の取り組み

がん研有明病院 副院長・看護部長 清水多嘉子

看護部では、約6年前より「患者の持つ力を見だし支援する看護」を行うためのプロジェクトを開始しました。

当院の看護師は、がん治療や看護について最新の知識や技術を得て、患者さんが予定された治療を計画通りスムーズに行えるために、また治療中もその後もその人らしく生活できるためにと取り組んでおり、その実践は国内でも高いレベルであると自負しています。

現在、チーム医療が一層充実してきており、一人の患者さんを取り巻く医師・薬剤師・栄養士・理学療法士など多数の医療職者がそれぞれの専門性や得意分野を活かして患者さんの利益のために日々一緒に検討を行っています。チーム医療の中での看護師は、常に患者さんに最も近い場所にいる立場として各専門職の調整役割を担っており、それも一つの重要な仕事ではありますが、看護師独自の専門性について今以上に意識的に取り組もうとしているのが表題の取り組みです。

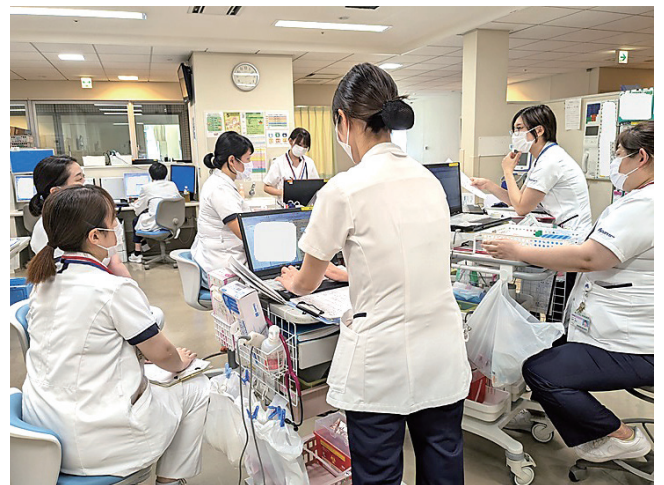
患者さんに限らず、人間には回復力があります。手術の傷ができて、風邪をひいて高熱や咳が出て、次第に治っていきます。長い間動かさずにいると筋肉が衰えたとしても取り戻すことができます。その治る過程では、身体の中で様々な機能がはたらいており、例えば傷を治す過程では、血流によって傷のある場所に酸素や栄養素、温度などが届けられ、届いた先で修復作業を行います。これは患者さんが元々持っている回復する力です。この大事な血流のためには、血管が収縮することは避けたいところです。身体は、痛みがあったり緊張状態が続くと血管の収縮が続いてしまう性質があるため、そうならないようにしたい。そのために看護師は、患者さんがどのような状態で過ごせばいいのか、つまりどのように生活すればいいのかを考え支援していきます。その他様々な心身の不調に対して、患者さんが元々持っている回復する力は何なのかを見定め、その回復力が存分に発揮できるように支援することを目指しています。

もちろん看護師によるこのような関りはすで実践してきているのですが、日々の看護の仕事が患者の持つ力を見出し支援していることをいつも明確に認識できていないこともありました。そこで看護師自身ももっと意識して取り組んでいこうとしています。

2023年2月に、私たちががん研看護部は第37回日本がん看護学会学術集会を担当し、そのテーマも「がん患者の持つ力を見出し支援する」としました。私たちががん研だけでなく、がん患者さんに関わる国内のたくさんの看護師が、患者さんの持つ力を見出し支援する看護をさらに広げ、患者さんの回復に向けて貢献していけることを願ってやみません。



第37回日本がん看護学会学術集会 ポスター
(この写真は当院の看護師が撮影しました)



病棟でのカンファレンスの様子

がん研有明病院

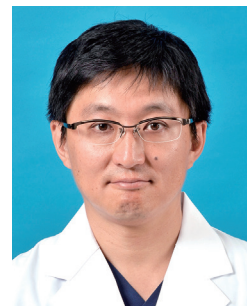
部署紹介

第54回 医療品質改善部

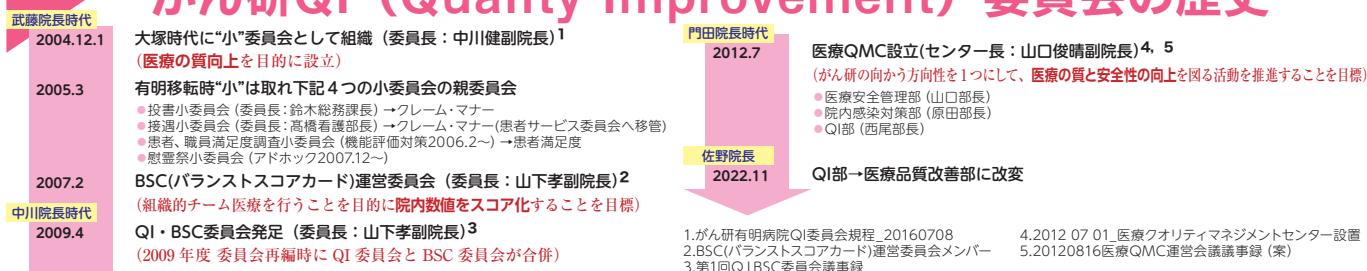
医療品質改善部 部長 望月 俊明

医療品質改善部は、2022年6月の医療機能評価において、医療の質改善活動の具体性が不足しているとの指摘を受け、2022年9月に部門の改編を行い、多職種による17名で新たに発足しました。

医療の質の定義は、Donabedian (1980年)¹による「医療の過程のあらゆる場面で伴う損益のバランスを考慮した上で患者の幸福度を最大化すると期待される医療」と、WHO (2018年)²による「必要としている人々に根拠に基づいてサービスを提供し(有効性)、医療を提供しようとしている人々に対する害を避け(安全性)、個々の好み、要求、価値に応じて提供する(応答性/患者中心性)医療」の2つが有名です。これらとがん研の理念を組み合わせ、がん研における良い医療を定義すると、「根拠に基づいたがん医療を提供し(有効性)、患者に対する有害事象を避け、革新的ながん治療の開発を行い(安全性)、患者/家族の希望・要求・価値観に応じたトータルケアとしての医療を提供する(応答性/患者中心性)ことによって、患者/家族の幸福度が最大化する医療」と言えるのではないのでしょうか。



がん研QI (Quality Improvement) 委員会の歴史



上の図に示すように、がん研は2004年から経営層が主体となり、Quality Improvement を目指す委員会を設立し、クレーム対応や患者満足度調査から始まり、時代とともに部署の統合再編を行ってきました。歴史を振り返ると、一部門による調査集計は行われてきましたが、病院全体・全職員が関わる機会は少なかった可能性があります。

このような背景から、当院の現状における医療の質改善の課題分析を行ったところ、右の表に示す3点が挙げられました。これらの課題に対処するため、院内に散在する既存指標の集計とデータ公開の場として、病院委員会の活動指標をまとめたパフォーマンスレポートを1回/年発行すること、改善活動の院内普及と教育の場として、職員の参考となる改善活動の報告会である医療品質改善大会を1回/年開催することとしました。2023年版パフォーマンスレポートが10月1日に完成し、第2回医療品質改善大会が11月22日、17:30から吉田講堂およびオンライン、オンデマンド形式で行われます。

患者さんに安心信頼して頂けるがん研であるために、医療の質を向上すべく今後も活動を続けて参りますので、ぜひ忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

1	医療データへのアクセス(抽出・二次利用)が悪く、各部門の質指標が散在し、職員に共有・可視化されていないこと
2	質改善の行動や組織変革の意識が病院全体に浸透していないこと
3	一般総合病院とは異なるがん専門病院としての指標が必要で、ベンチマークデータが少ないこと

表 がん研の医療の質改善における課題



1. Donabedian A. The Definition of Quality and Approaches to Its Assessment. Vol 1. Explorations in Quality Assessment and Monitoring. Ann Arbor, Michigan, USA: Health Administration Press:1980. ISBN: 9780914904489.
2. World Health Organization. Handbook for national quality policy and strategy: a practical approach for developing policy and strategy to improve quality of care. Geneva, Switzerland: World Health Organization, 2018. Available from: <https://apps.who.int/iris/handle/10665/272357>. License: CC BY-NC-SA 3.0 IGO.

寄稿

村山忠久様 プロフィール

今回寄稿の村山忠久さんは杉並区立和田中学校校長をつとめています。足立区、多摩市、町田市、杉並区の中学校を経て、令和4年4月に杉並区立和田中学校の校長に着任しました。がん研友の会理事の瀧澤さんとの出会い、がん教育の講演を令和5年6月、がん研究会有明病院の花出正美看護師長とともに同中学校で実施するというご縁がありました。

Well-being に向けて

本校の取組にふれながら Well-being について考えてみます。本校の教育目標は「自立貢献」です。「自立」は「自ら立つ」と書きます。こう考えると、自分で何でもやっけることができる人と考えがちですが、「自分は立ってられる」と考えると、自分で立ってられないときに周囲の協力を得ながら「立つ」ことができれば、これも「自立」になると思います。人の協力を得て「自立」できますし、人に協力することで「貢献」できます。「自立貢献」とは協力し合うこと、支え合うことと言えます。人とのつながりが不可欠なのです。



9月の授業で、義肢装具士の方に「多様性」について講演していただきました。この方は依頼者が何をしたいのか対話をして完全オーダーメイドで製作しています。アニメのキャラクターの指の本数の話や外国で義手をつけていると「なんでつけているの？」と聞かれるという話など、具体的な事例を示して「なんかおかしくない？」と気づかせてくださいました。周りを気にせず義手などがなくてもよい世の中をつくっていくことが大切というお話でした。知らなかった見方・考え方を知ることで、見方・考え方が変わり、行動が変わっていきます。ですから、人に出逢うこと、人とつながることは大切なのです。

ダンス部の生徒は部活動で、保育園児は保育園でそれぞれダンスを普段踊っています。それを「一緒にやってみようよ」ということで一緒に踊る企画を立て、3月に実施しました。中学生は園児に優しく接して笑顔になり、園児は中学生と一緒に踊れて喜び、満面の笑みがこぼれていました。後に園長先生から、その園児たちが卒園後に顔を見せにやってきた時に、何人かが「楽しかった」と言っていたという話を聞きました。企画した私たちの予想以上に、園児にとって良い思い出になったのです。

こういった活動が、当事者にとっては楽しみになったり、自分らしさを発揮できる居場所になったりします。お互いに、何を望んでいるのかを知ること、つまり正しく理解することができれば、見方・考え方が変わり、どのように行動すればよいか考え、行動できるようになると思います。お互いが求めているものが違って、お互いの気持ちが満たされると、そこに「やってよかったな」「楽しかったな」というあたたかな気持ちが芽生えます。これが充実感のある幸せな状態です。これがあちこちで起こると Well-being の世の中になっていくのではないかと思います。

紙飛行機

～友の会 会員便り～

俳句は我が人生の友

友の会 会員 齊藤 昭信

俳句は私が五十歳の時始めました。きっかけは妻の姉の影響からです。都会育ちの私には花鳥風月を詠む事が新鮮に思えたのだと思います。さらに俳句には歴史、文化、生活一般にも表現ができることを知りました。

俳句を作るのに名所、旧跡などに出かける事を吟行と言います。句材を探すためにじっくりと観察しながらの吟行はとても楽しいのです。名所、旧跡を求めて鎌倉に毎月行くように成りました。そして毎年数回京都、奈良にと通い俳句作りに頑張りました。しかし鎌倉も京都も奈良も中国からの文化の影響が大きいと感じたのです。

五十五歳の時、俳句仲間と北京、敦煌、西安と吟行旅行をし、それ以来中国五千年の歴史、文化に魅せられて、今日まで八十数回も中国各地を旅行するとはその時は想ってもいませんでした。

六十歳の時、自由に一人で中国各地を旅行したいと思い、中国語を学ぶ決意をして学校に通い、今は一人で中国各地を旅行することができるように成りました。中国

語の発音は今でも難しいです。

中国語を学ぶことで、中国の留学生と知り合い、彼等に俳句を教える機会が有りました。留学生の中に、大学の日本学科の講師達もいて、帰国したら俳句を授業に取り入れたいと、今も一緒に俳句を作っております。

私は来春八十歳になります。でも精神は五十歳の気持ちで、歴史、自然を求めて、吟行をしながら、これからの俳句人生を楽しんで行こうと思っています。



万里の長城

呉の国の暮れなんとして桐の花 昭信
北斎の濤高々と初暦 昭信

五目チャーハン

がん研有明病院 栄養管理部

材料 (2人前)

米……………1合	なると……………適量
油……………小さじ1杯	グリーンピース……………適量
鶏ガラスープの素…小さじ1/2杯	長ねぎ……………1/4本
塩……………小さじ1/5杯	卵……………2個
醤油……………小さじ1杯	油……………小さじ1
チャーシュー……………50g	

作り方

- ①米を研ぎ、通常の水加減にした後、★の材料を加えて炊く。
- ②チャーシューとなるとは角切り、長ねぎはみじん切りにしておく。
- ③卵を割って解きほぐす。
- ④フライパンに油を入れて熱し、③の卵を加えて炒め、半熟になったら②を加えて軽く炒めておく。
- ⑤①のごはんが炊けたら、④を加えて混ぜ、グリーンピースを加える。
- ⑥お皿に盛りつけてできあがり。

一口メモ

ネーミングはチャーハンですが、ごはんを炒めるのではなく、炊飯時に調味料を入れて味付けごはんにすることで、少ない調味料でもむらなく味付けができます。油が少なめなので、消化にもやさしく、さっぱり食べられます。卵やなると、チャーシューなどを加えることで、たんぱく質も同時に取ることができます。



がん研有明友の会 現在の状況

この度の会報表紙の記事はがん研究会常務理事・研究本部長野田研究所長にご執筆いただきました。

本会会報のトップページの記事はこれまで本友の会の役員、そしてがん研の主だった先生方に順に執筆いただいていたまいりました。病院ではこの間何回か院長の交代がありその都度病院長に執筆いただいていたまいりましたが、所長先生のご執筆は2009年7月第6号にご執筆いただいて以来のこと、実に14年ぶりということになります。

ご存じのとおりがん研究会は日本で最も歴史のあるがん専門機関で、柱として基礎研究部門の研究所と臨床、医療部門に当たる病院とがあり、研究所は病院の最新のがん医療を進める上での大きな支えであるといえます。が、本友の会としては患者さんを介しての付き合いが多く、どちらかという患者さん向きのところがあり、研究所の先生方の執筆は少なく、所長先生にも長らくご執筆をいただいております。

ついでに、前々から是非執筆いただきたいと思っていたところでしたが、兎に角日頃お忙しくおられる先生のこと、申し出が出来ずに今回のこととなりましたが、快くお引き受けいただきました。そんな経過があり、研究部門・化学療法センターの細かな状況を詳細にお書きいただいたことで文字数が多くなっております。これでも大幅に縮めていただいたもので少し小さな字が詰まっていますが、研究所の状況をよく知るためにどうぞ心してご覧いただきたいと存じます。

有明の風 表紙の写真について

コキアと富士山を撮影したくて河口湖の大石公園へ行ってきました。

少し時期が早く、コキアが未だ赤くなりきっていませんでしたが、富士山がしっかり顔を出してくれました♪

撮影日、撮影地：2021年10月15日 河口湖

写真データ：SONY α7C f16 SSL/50 ISO-100 浅田政幸(募金課)

この一冊

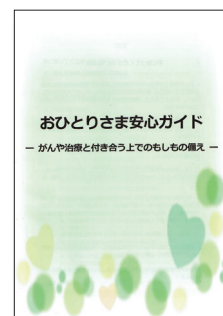
おひとりさま安心ガイド —がんや治療と付き合う上でのもしもの備え—

がん研究会有明病院がん相談支援センター発行、A5判38頁の小冊子です。

がんはこれまで不治の病と恐れられてきましたが今や治る病気になったといえます。とはいえ、病状により簡単な治療ではすまされず長期に困難な治療を受けなければならないことがあります。これはがんに限ったことではなく他の病気でもそうですが、そうした状況と付き合っていく上でのもしもの備えは必要なことです。

そのためを知っておきたいこと、心構えが同相談支援センターのスタッフの立場から幅広く細かく書かれています。非売品ですが病院内で手に入れることが出来ます。友の会事務局にお申し出いただければご送付するようにいたします。是非ご覧いただければと思います。

発行：がん研究会有明病院がん相談支援センター
発行年月：2021年10月1日 第2版発行
サイズ：A5 38ページ
価格：非売品



有明友の会 入会のご案内

有明友の会は、がんで命を落とさないようにするために、がんに関する知識を深め、情報を共有し、がんを気をつけよう、がん研究の支援により、進んだ医療が受けられるようにしようということを目的としております。

その活動は、年4回の会報発行、公開講座の開催などの他、日本で最も歴史のあるがん研究会の事業支援をすることとしており、年会費は5,000円(個人、一口)となっております。多くの皆様のご入会をお待ちしております。

第58号の訂正とお詫び 第58号P5部署紹介の回数に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。(誤)第52回 → (正)第53回

がん研有明友の会会報 発行元・事務局

〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31 がん研有明病院内 TEL: 03(3570)0561 FAX: 03(3570)0562

HP: <http://ariaketomonokai.org> E-mail: tomonokai@jfc.or.jp



◀友の会ホームページ